令和9年度採用（令和8年度秋期採用を含む）
令和8年度補充採用

次世代プロジェクト（SPRING）

―グローバル社会を牽引する総合知と実践知を備えた博士イノベーター育成プロジェクト―

募集説明会

2026(令和8)年11月6日(金) 12:00～13:00於オンライン(Zoom)

新潟大学SPRING事業統括　本田 明治
副学長（大学院担当）、
大学院教育支援機構博士イノベーター育成部門長

次世代プロジェクト(SPRING)

新潟大學

次世代プロジェクト(SPRING)　支援制度について

・科学技術振興機構（JST）において、
SPRING事業の支援制度に関する**見直し**が行われました。

主な見直しのポイント

令和９年度以降に支援を開始する学生は、以下の３つの支援区分に応じた支援内容となりました。

区分１　日本人学生：**研究奨励費（生活費相当分）及び研究費**
区分２　留学生　　：**研究費**
区分３　社会人学生：**研究費**

詳細につきましては、以降のスライド及び下記ページをご覧ください。
・PhDリクルート室　次世代プロジェクト募集要項・Q&A掲載ページ
https://www.phd.niigata-u.ac.jp/student/fellowship/shinzisedaipj/application-guidelines/

内容

(1) 本学における博士支援体制について

(2) 次世代プロジェクト(SPRING)について

- 新潟大学でこれから育成する博士人材像
- 申請要件・採用予定者数、支援期間、申請条件
- 概要（キャリアコンテンツ等）、支援内容
- 各ユニット、ポイント制について

(3) PhDリクルート室・PhDリサーチ・イノベーションサポート室について

(4) 学生募集について：募集要項・申請書類の説明

(5) 今後の予定等

(6) 質疑応答

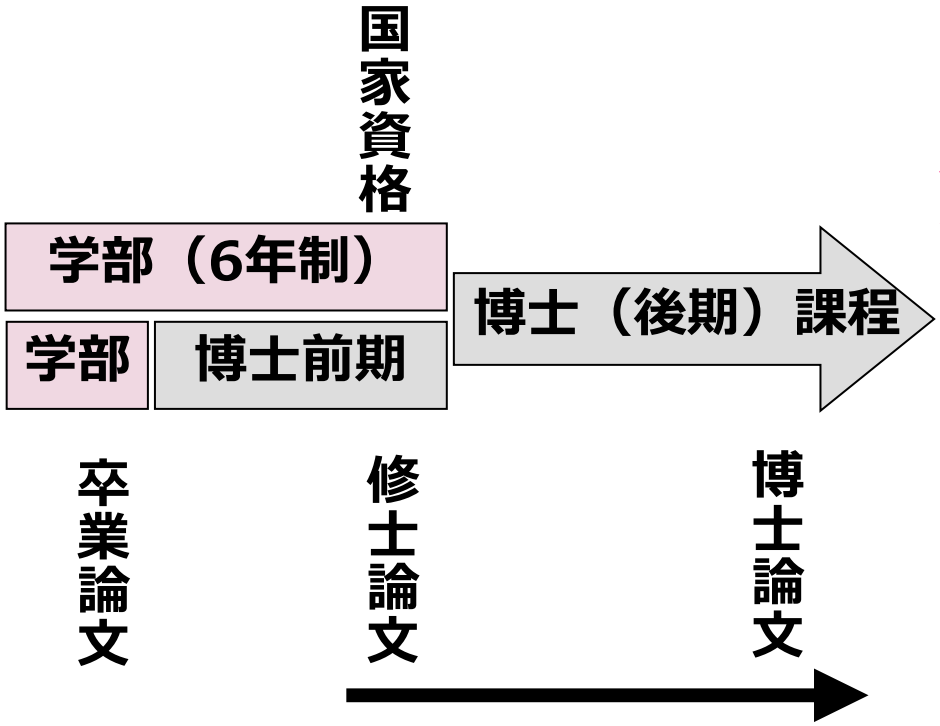


2025年度
博士学生支援プログラムシンポジウム（次世代事業報告会）

（1）
本学における
博士支援体制について



博士（後期）課程の流れ



アカデミア
博士研究員（ポスドク）
大学教員、研究所研究員

産業界
研究者、医師、技術者、管理者
など多様なキャリアパス

学振特別研究員制度への申請
次世代プロジェクト(SPRING)への申請

入学料・授業料免除、一時金支給
TA、RA、JASSO奨学金返還免除
PhDリクルート室によるキャリアパス支援

新潟大学における博士(後期)課程学生のキャリアパス支援

新潟大學

アカデミアリクルート

博士離れの主な要因

- 経済的な不安
- 就職に関する不安
- 孤立しがちな立場

魅力的なプログラム

安心・充実した博士生活のための対策

- 優秀な学生への経済支援→経済的な余裕
- キャリアパス構築支援→明確な進路像
- 専属メンターの配置→相談できる環境

社会での活躍

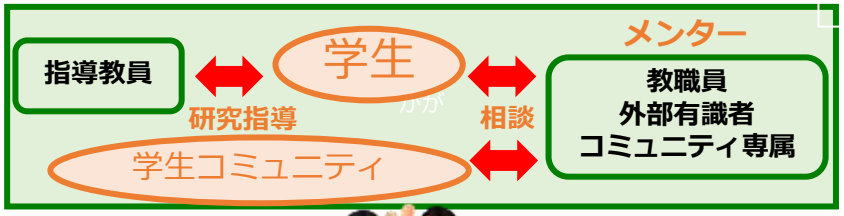
多様なキャリアパス

- 産業界への就職
- アカデミアポスト獲得
- イノベーション創出起業

マッチングイベント等によるキャリアパス支援（PhDリクルート室）



メンター制度による研究環境支援（PhDﾘｻｰﾁ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｻﾎﾟｰﾄ室）



博士課程進学へのモチベーション
（カスタマージャーニーマップ分析による）



■次世代研究者挑戦的研究プログラム

（予定）
予約採用※
本採用

■早期支援

PhDリクルート室によるキャリアパス支援
PhDﾘｻｰﾁ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｻﾎﾟｰﾄ室による研究環境支援
進学キャンペーン

就職活動
学部生
修士院生

B1 B2 B3 B4 M1 M2 D1 D2 D3 D4

※今回の募集では予約採用は実施しません。

新潟大学における博士学生支援新体制～博士イノベーター育成部門～

新潟大學



理事［教育・グローバル推進 担当］
副学長
大島 範和



副学長［大学院］
博士イノベーター育成部門長
本田 明治

総合
相談窓口

PhDリクルート室

意欲ある修士を博士へ誘う/博士の「真の力」強化/キャリアパス多様化支援

PhDリサーチ・イノベーションサポート室

研究支援
起業支援



村山 敏夫



弥富 洋子



于 晶



山口 和香子



寺尾 豊



飯島 敦彦



大橋 慎太郎

＋ 兼務教員 3名

国際PhDリクルート室



留学生支援

メンター教員

（総合学術研究科/医歯保健学研究科）

研究相談



伊藤 龍史



井上 誠



齋藤 あや



関島 恒夫



豊田 光世



中馬 吉郎

キャリアパス　就職相談　奨学金情報

支援サポート

相談

博士・博士後期課程学生



採択

生活費相当額・研究費支給（条件によっては研究費のみ）
研究環境支援・キャリア形成サポート
キャリア開発・育成コンテンツ提供（社会人学生を除く）

UA室

融合研究

院生会

学生交流

新大院生会

次世代プロジェクト

事業統括	専門深化	創生 (クロスAI)	キャリア	学際研究
本田 明治	寺尾 豊	飯島 淳彦	弥富 洋子	村山 敏夫

(2)

新潟大学

次世代プロジェクト(SPRING)について



次世代プロジェクト(SPRING)の実施形態

新潟大學

2027（R9）～

国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

令和9年度次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）

～博士後期課程学生の挑戦を支援する～

採択

実施報告

中間評価
継続判断※

新潟大學 NIIGATA UNIVERSITY

グローバル社会を牽引する総合知と実践知を備えた

博士イノベーター育成プロジェクト

実施
支援提供

参加
成果報告

支援学生



※　中間評価の結果、経費の削減や中止の措置もあり得る。
（JST SPRING公募要領より）
https://www.jst.go.jp/jisedai/spring/dl/fy2027/application-guideline-2027SPRING.pdf

JST 事業概要（HPより：次世代研究者挑戦的研究プログラム事業概要）

博士後期課程学生は、我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う存在ですが、近年、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」「博士課程修了後の就職が心配である」等の理由により、修士課程から博士後期課程への進学者数及び進学率がいずれも減少傾向にあるなど、危機的な状況が指摘されています。

すなわち、①我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生への経済的支援を強化し、②博士人材が幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進めることに、一刻の猶予もなくなりつつあります。また、このような現状に至る背景の１つとして、我が国の博士課程教育システム自身が、社会のニーズの変化を踏まえた戦略的な変革を十分に進められていないという構造的な課題があり、その結果、既存の枠組みを越えた挑戦的・融合的な研究も生まれにくくなっていることなども指摘されています。

本事業は、このような状況を打破するため、上記の①や②を一体として主体的に行う実力と意欲のある大学について、新たに大学の研究科や研究室など既存の枠組みを越えて優秀な博士後期課程学生の選抜等を行う事業統括を選定し、そのリーダーシップのもと、当該博士後期課程学生に対する様々な支援を実施・展開する大学の取組を国として支援するものです。

事業統括により選抜された優秀な博士後期課程学生は、所属元の変更などのポータビリティを担保した上で自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念し、あわせて当該博士後期課程学生に対しては、生活費相当額及び研究費の支給や、キャリア開発・育成コンテンツ（国際性の涵養、学際性の涵養、キャリア開発、トランスファラブルスキルの習得、インターンシップ等）をはじめとする様々な支援が提供されます。

新潟大学でこれから育成する博士人材像

新潟大學

学生
モデルケース
2026年度
新潟大学
入学生

基礎能力・リテラシー
メジャー・マイナー制度
大学院進学マインド醸成
国際マインド醸成

研究専門力
トランスファラブルスキル
アントレプレナーシップ
産学地域連携教育
専門知＋総合知＋実践力

博士イノベーター

高度な専門性をもとに「総合知」と「実践力」を発揮し、多様なセクターで未来社会に革新を生み出す未来創造型博士人材

大学入学 → 博士前期課程進学 → 博士後期課程進学 → 博士号取得

博士イノベーター育成部門設置
- PhDリクルート室
- PhDリサーチ・イノベーションサポート室
- 国際PhDリクルート室

SPRING
キャリア構築＆研究活動基盤

アカデミックライティング
メンター面談
マルチラボ
キャリア教育

＋

博士ベンチャー支援ラボ
採択初年次面談
UA/URA/IR教育
留学生への日本語教育
デジタルコンテンツ拡充

継続強化　新設

SPRING

フェローシップ
SPRING

博士イノベーターの大幅育成 → 「知の総和」向上 → 持続可能な未来社会を構築

戦略的アカデミアリクルート
(日本人学生・留学生・社会人)

国際共同ラボ
留学生リクルート

博士学生派遣による
地域イノベーション実践
(共創IP・国際ラボ)

組織型地域連携プロジェクトによる収益化・自走化

FLAGs
大学院教育拠点
博士大幅増

J-PEAKS
研究基盤
国際＆地域研究

PhDリクルート室設立

大学院改組

2020　2021　2024　2026　2027 ～ 2031　2034　2036　2040

2025実績
入学者数 195 人
就職率 76 %

博士・博士後期課程進学率
6.2% (2022年度) → 8.7% (2025年度)

博士後期課程修了後の進路（就職希望者）
2024年度
就職率：98 %

5年後
入学者数 370 人
博士課程学生に生涯ID付与
博士イノベーター人材ネットワーク

将来ビジョン2030
未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる

10年後
「複合的課題」を解決
「知のプロフェッショナル」たる博士人材を育成
入学者数 603 人
日本人学生・留学生・社会人 5：3：2
(就職希望者) 就職率 100 %
女性比率 37 %

次世代プロジェクト(SPRING)　申請要件・採用予定者数、支援期間

新潟大學

採用区分	分類	申請要件（課程・年次等）
令和９年度採用（令和８年度秋期採用を含む）	Ⅰ	2027（令和9）年4月（または2026（令和8）年10月）に、下記の本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の者 ・現代社会文化研究科・自然科学研究科・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第１年次
令和８年度補充採用	Ⅱ	2026（令和8）年10月に、下記の本学大学院博士課程・年次に在学する者 ・現代社会文化研究科・自然科学研究科・医歯保健学研究科の博士課程・第１年次 （2026（令和8）年10月入学者を除く） ・医歯学系の４年制の博士課程・第２年次
	Ⅲ	2026（令和8）年10月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者 ・現代社会文化研究科・自然科学研究科・医歯保健学研究科の博士課程・第２年次 ・医歯学系の４年制の博士課程・第３年次
	Ⅳ	2026（令和8）年10月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者 ・医歯学系の４年制の博士課程・第４年次

※　令和10年度予約採用（令和9年度秋期予約採用を含む）は、実施しない。

次世代プロジェクト(SPRING)申請要件・支援期間・採用予定者数

新潟大學

支援期間

支援期間は、分類Ⅰにおいては、2027（令和9）年4月（または2026（令和8）年10月）から最大３年間（４年制の場合は４年間）とする。
補充採用の場合、2026（令和8）年10月から、分類Ⅱは最大２年６カ月間、分類Ⅲは最大２年間、分類Ⅳは最大１年間とする。いずれも、在学期間が３年間（４年制の場合は４年間）を越える場合、以降の期間は支援対象外とする。

ただし、分類Ⅰについて、各年度の支援人数の制約により、10月入学者においては、支援開始が入学翌年度の4月になる場合がある。その場合、支援期間は最大２年６カ月間（４年制の場合は３年６カ月間）となる。

出産・育児等のライフイベントを経た者については、個別の事情に応じ、支援期間の中断・延長等も可能とする。

採用予定者数

各区分の採用予定者数は以下のとおりです。

＜分類Ⅰ＞

区分１（日本人学生）	２２名程度
区分２（留学生）	２名程度
区分３（社会人学生）	１名程度

＜分類Ⅱ～Ⅳ＞

区分１～３	若干名

次世代プロジェクト(SPRING)　申請条件

新潟大學

1．申請者は、JST SPRING事業及び新潟大学次世代プロジェクトの趣旨を理解し、優れた研究能力あるいは資質・意欲を有し、自由かつ柔軟な発想による挑戦的・融合的な研究に専念することを希望し、かつ上記の申請要件及び下記の条件を満たす者とする。

年齢制限、研究分野の指定は設けない。

2．次に揚げる事項を全て遵守できる者とする。

（1）**申請した研究計画を踏まえた研究活動に専念** すること。

（2）**キャリア開発・育成コンテンツに参加** **※1** すること。

（3）**博士学生交流会** **※2** に参加すること。

（4）年度始めに **研究計画書**、年度末に **研究成果報告書** を提出すること。

（5）**メンターによる面談** を定期的に受けること。

（6）**Researchmapに登録し、業績を更新** すること、
及び修了後10年以上に渡って実施する
キャリアについての追跡調査を始め、各種調査に協力 すること。

（7）**ジョブ型研究インターンシップに学生登録**　すること。

（8）**各種研究法令及び学内規程等を遵守し、研究インテグリティ（研究の健全性・公正性）の自律的な確保** ができること。

※1　選択ユニットにより必須となるキャリア開発・育成コンテンツは異なる（後述）。

※2　博士学生が大学横断的に交流を行う交流会。宿泊を伴う可能性もある。

次世代プロジェクト(SPRING)　申請条件

新潟大學

留学生の採用について

JST SPRING事業の公募要領に基づき、留学生においては、
修了後の日本への定着及び日本の国際競争力向上への貢献を視野に入れ、
日本の科学技術・イノベーションに貢献するキャリアに進むことが求められる。

また、多様な国・地域、特にASEAN諸国からの受入れを積極的に図ることが
JSTの公募要領にて求められているため、選考に当たってその点を考慮する場合がある。

次に当てはまる者は除く

（1）**SPRINGと同趣旨の国費による研究費支援**を受ける学生
- JST「次世代AI人材育成プログラム（博士後期課程学生）」の対象学生
- 日本学術振興会（JSPS）の特別研究員
- 国際協力機構（JICA）から支援を受けるJICA留学生
- JST「日　ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業(NEXUS)」の若手育成対象者

（2）**本プロジェクトとの併給を認めない他の奨学金** を得ている学生

新潟大学 グローバル社会を牽引する総合知と実践知を備えた博士イノベーター育成プロジェクト

「知のプロフェッショナル」として「知の総和」の向上に貢献　持続可能な未来社会を構築

多様な分野で革新を起こす **博士イノベーター**　白背景：推奨または必須

博士号取得
(D4)
D3
キャリア決定
キャリア・研究の深化と発展
D2
各分野へ
キャリアの学び
D1

4つの人材育成ユニット

- **専門深化型**：日本の科学技術・イノベーションに貢献する研究人材の育成(UA・URAを含む)
- **創生型（クロスAI）**：クロスAI分野でイノベーションを創出できる博士人材の育成
- **キャリア型**：環境変化にしなやかに対応できるイノベーションリーダーの育成
- **学際研究型**：異分野融合で自由な発想と創造ができる若手人材の育成

ユニット選択 面談・審査

キャリア開発育成コンテンツ

- ジェネリックスキルセミナー
- 企業連携イベント
- インターンシップの実践 JOB型を含む
- アカデミックライティング講座
- 博士ベンチャー支援ラボ
- アントレプレナーシップ
- 博士ベンチャー支援ラボ
- 日本語・日本文化教育　等

- 採択者ガイダンス
  制度理念浸透
  支援概要・スケジュール共有
  博士ネットワーク創出

- 研究計画書提出
- 博士のためのキャリアマネジメントセミナー キャリアの選択肢拡大
- メンター/キャリア面談 学生自身のキャリア観アウトプット
- 年度末シンポジウム参加 研究・キャリア形成への示唆の獲得

SPRING：本学博士後期課程学生を支援

新設 **大学院教育支援機構・博士イノベーター育成部門** 2026年4月新設

国際PhDリクルート室 / PhDリクルート室（強化） / PhDリサーチ・イノベーションサポート室 / メンター教員

BDA研究センター　UA室　学務部教務課大学院支援係

FLAGs：大学院教育拠点　博士大幅増　国際＆地域研究　**J-PEAKS：研究基盤**

キャリアコンテンツの取り組み状況の評価にあたってはポイント制を導入

次世代プロジェクト(SPRING)　支援内容

新潟大學

支援内容

(1)生活費相当額　**区分１の申請条件を満たす日本人学生**には、
月17.5万円を2ヶ月毎に支給

(2)研究費　各ユニットに以下を支給（**年額**）

初年次（共通メニュー時）		：	**20万円**
2年次以降	①専門深化ユニット	：	**20万円**
	②キャリア型ユニット	：	**20万円**
	③創生型ユニット	：	**30万円**
	④学際研究型ユニット	：	**40万円**

(3)メンターによる研究環境支援及びアカデミアまたは産業界へのキャリア形成に関する助言や提言

(4)PhDリクルート室によるジェネリックスキル獲得のためのセミナー等、キャリア開発・育成コンテンツの提供

※　なお、支給金額は、JSTの制度見直し等により変更する場合があります。
※　本制度では、**授業料の免除は支援内容に含まれません**。
授業料の免除を希望する方は、**新潟大学独自で実施する授業料免除および徴収猶予制度へ各自お申込み**ください。

ユニット紹介



専門深化型ユニット

目指す将来像

①日本の科学技術・イノベーションに貢献する(アカデミアの)研究人材
②日本へ定着および日本の国際競争力向上に貢献できることが望ましい
③留学生は，支援期間内に日本語能力試験N2を取得することが望ましい

必須コンテンツ

支援期間の終了までに，
①博士課程修了規定以上の数の論文を投稿すること

支援期間の毎年度に，
②学振特別研究員への申請
③アカデミックライティングセミナーへの参加

ユニット長

医歯保健学 教授・寺尾　豊
(科研費・学振・JST・AMED審査員)



キャリア型ユニット

将来像	**環境変化にしなやかに対応できる 「博士イノベーター」** 〇あらゆる場で、自身の博士課程で培った力（研究力＋α）を発揮し、課題発見・解決を行い、イノベーションを創出する人材 （産業界に限定していません。）
必須コンテンツ （支援期間中各１回以上）	・専門外にもアンテナを立て、多様な社会人との接点をもち、自身を鍛える ・人間力を高めるために、ジェネリックスキルを身につける ◆PhDリクルートフォーラム ◆ジェネリックスキルセミナー３講 ・交渉学 ・プロジェクトファシリテーション ・研究者のためのビジネスマナー

ユニット長：ＰhDリクルート室長　弥富洋子



創生型(クロスAI)ユニット

将来像

クロスAI分野で
イノベーションを創出できる博士人材

〇情報・AI関連技術を活用して専門的研究の推進できる

〇情報・AI関連技術を活用してイノベーションを起こせる

〇情報・AI関連技術をハブとして，異分野とコラボできる

必須コンテンツ（支援期間中各１回以上）

〇加速化・多様化するデータサイエンスに関する知見や技術を習得

〇キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキルを習得

◆ YDSCの企画・運営（支援期間中１回以上）

◆ビックデータアクティベーション研究センターのセミナー・講習への参加（支援期間中１回以上）



ユニット長：自然科学系情報電子工学系列（工学部）教授
飯島　淳彦

学際研究型ユニット



ユニットの目指すビジョン

・異分野融合で研究力が強化できるユニット
・自由な発想と創造ができる若手人材が育成されるユニット
・ムーンショット思考が生まれる環境のユニット



学際ユニット長：村山敏夫
（PhDﾘｻｰﾁ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｻﾎﾟｰﾄ室長）

学生に養われる能力

・主体的で複合的な研究に取り組む能力
・障壁を乗り越える能力
・未来を創造できる能力
・仲間と一緒に協働できる能力



能力を獲得するためのマルチラボ＆学内発表（必須コンテンツ）

①マルチラボ：異分野研究室への学内短期留学（原則3カ月）
②学内発表　：U-goサロン、シンポジウムなど
・多彩で多様な研究分野の人材とつながるコンテンツ
・異分野の研究室で新しい知見・考え方を学ぶ
・活動を通じて得た経験・成果を発表し意見交換



学際研究型ユニットの支援体制

・メンター教員による個別面談対応
・若手教員による距離感近いサポート
・メタバース空間(oVice)を活用したカジュアルな意見交換

各コンテンツ参加とポイント制について

新潟大學

概要

2年次から分かれる4つの人材育成ユニット毎に、
必須の活動＋**自身で選択可能なコンテンツ**に取り組む。

ポイント制で実施状況確認

コンテンツ毎のポイント

・博士後期課程1年次／博士課程1,2年次 から支援の学生向けの内容
・1年次から全て参加可能

必須

<共通>

・博士のためのキャリアマネジメントセミナー履修・単位取得 2 pt
・年度末シンポジウム（参加）* 1 pt
・年度末シンポジウム（発表）* 1 pt
*毎年参加毎に1 pt加算

6 pt

<ユニット毎必修> 2年次以降

専門深化	・学振申請（DC2・PD） ・規定数以上論文投稿 ・アカデミックライティング受講	5 pt 5 pt 2 pt	**12 pt** +選択2 pt
キャリア	・PhDリクルートフォーラム参加 ・交渉学、プロジェクトファシリテーション、研究者のビジネスマナー実践	5 pt 各1 pt（計3 pt）	**8 pt** +選択6 pt
創生（クロスAI）	・BDA研究センター夏期講習参加 ・若手データサイエンティストコロキウム（YDSC）運営・開催	2 pt 5 pt	**7 pt** +選択7 pt
学際	・マルチラボ実施 ・マルチラボ（学際的研究）成果に関する学内発表	5 pt 1 pt	**6 pt** +選択8 pt

合計20ポイント以上

選択

・交渉学　・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ
・博士交流会（参加）
・研究者のためのﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ
・学外主催ｲﾍﾞﾝﾄ発表（学会等を除く）
・未来の博士ゼミ（対面参加）　各1 pt

・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ
・企業研究ｻｲﾄﾋﾞｼﾞｯﾄ
・12大学合同企業説明会
・ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾗｲﾃｨﾝｸﾞ
・BDA研究ｾﾝﾀｰ夏期講習　各2 pt

・他大学ﾏｯﾁﾝｸﾞｲﾍﾞﾝﾄ
・YDSCの企画・運営ｻﾎﾟｰﾄ
・ﾏﾙﾁﾗﾎﾞ成果国内学会発表
・ｸﾛｽﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ　各3 pt
・学振採択　20 pt

・国内学術誌への論文投稿
・規定数以上論文投稿　・学振申請
・ｼﾞｮﾌﾞ型研究ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ　各5 pt

ほか発表内容や論文IF等で追加ptあり

・他ユニットの必須項目も選択の中から受講・ポイント取得可能
・1年次終了までに9 pt、2年次終了までに計18 pt取得を推奨
→　ポイント数（実施状況）によって研究費増額申請可否や支援継続を判断

2026年度スケジュール（予定・一部抜粋）

新潟大學

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

●博士のためのキャリアマネジメントセミナー

●採用初年次面談

●● ●ジェネリックスキルセミナー

●英語論文ライティング講座(未定　導入編2回、基礎編4回、上級編4回)

・プロジェクトファシリテーション（5/22）
・研究者のためのビジネスマナー（5/29）
・交渉学（6/17）

●：ユニット選択
●：参加必須項目
●：ポイント項目
（ユニットにより必須）
※詳細はコンテンツ・ポイント一覧をご覧ください

●12大学企業合同説明会（7/16・17）

●スキルアップセミナー(未定)

●BDA研究センター夏期講習（9月頃）

●PhDリクルートフォーラム（9/10）

●未来の博士ゼミ（11/18）

●ユニット選択（５～６月頃（秋入学D1））

●博士交流会（9/15・12/9）

12大学合同博士クロスディスカッション（11/30-12/1）●

●YDSC2026 （12/14）

●企業研究サイトビジット （7/23・11/24）

●新規採択者ガイダンス

●研究計画書提出

●researchmap登録

●ジョブ型研究インターンシップ登録

年度末シンポジウム（3/17）●

●メンター面談（10月頃）

●ユニット選択（9~10月頃（春入学D1））

研究報告書提出●

(3)

新潟大学
PhDリクルート室
PhDリサーチ・イノベーション
サポート室



キャリア支援　PhDリクルート室

博士後期課程学生が修了後活躍するためのサポート

アンテナと適応力を高め、専門性を活かし
「高度人材・知のプロフェッショナル」への支援

インターンシップ（JOB型含）

企業研究サイトビジット

PhDリクルートフォーラム

未来の博士ゼミ

ジェネリックスキルセミナー
プロジェクトファシリテーション
研究者のためのビジネスマナー
交渉学

博士のためのキャリアマネジメントセミナー

博士イノベーター

キャリア相談

ジェネリックスキル習得

学外との接点提供

PhDリクルート室が支援

五十嵐キャンパス総合教育棟2F D204室
☎ 025-262-7217
✉ phdrecruit@gs.niigata-u.ac.jp

研究環境支援　PhDリサーチ・イノベーションサポート室

新潟大學

①博士学生の研究支援

- 外部競争資金獲得のためのノウハウ提供 —— 学振ライブラリ、学振添削サポートなど
- 学内外のトップ研究者との意見交換の場面設定 —— メンター面談など

②分野横断融合的研究機会構築

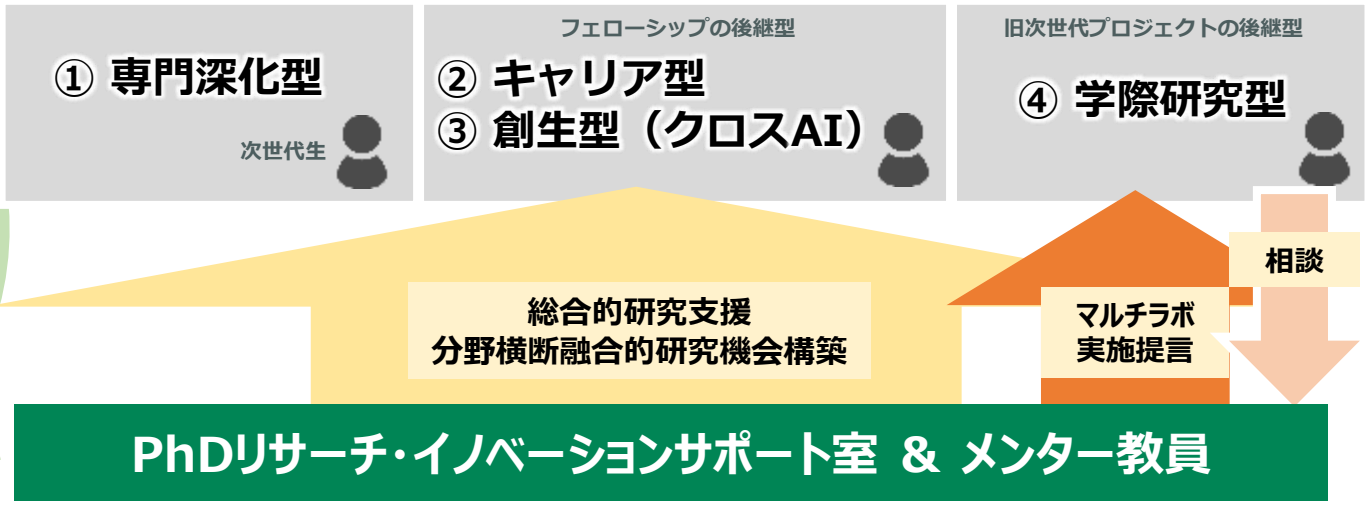
- マルチラボ実施時の助言と支援 —— メンター面談
- 博士学生同士、博士学生と教職員交流の提供 —— 博士交流会など
- 学際的研究成果の発表機会 —— シンポジウム構想中



PhDリサーチ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ
サポート室長

村山　敏夫

次世代との関わり方



丁寧な支援と大胆な発想に対する後押しで博士学生の研究力を高める

（4）

学生募集について



新潟大學

よくご確認ください

募集要項・Q&A 掲載ページ

https://www.phd.niigata-u.ac.jp/student/fellowship/shinzisedaipj/application-guidelines/

次世代プロジェクト 概要と特色 掲載ページ

https://www.phd.niigata-u.ac.jp/next-generation-project/about/

申請書類・申請方法について

新潟大學

推薦書・同意書の記入依頼

推薦書：申請者をよく知る方（可能な限り、博士(後期)課程における受入教員(指導教員)）を推薦者に立てて記入を依頼し、推薦者がメールで提出すること。

同意書：必ず博士(後期)課程における受入教員(指導教員)に記入を依頼し、指導教員(受入教員)がメールで提出すること。

↓

申請登録フォームの入力

https://forms.office.com/r/0gr14PLckG

※募集(申請)期間のみ入力可能です。

↓

申請書をメールで提出

パソコンで作成後、自署欄に直筆で記名したものをPDFファイルに変換し、所定のパスワードをつけて送付すること。

提出先：新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局
fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp

（5）

今後の予定等

今後の予定等

募集（申請）期間	11/13（金）～11/16（月） 23:59まで
第一次審査結果通知	12/3（木）まで
第二次審査（面接）	12/10（木）～12/11（金）
結果通知	12/25（金）まで

【問い合わせ先】

新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局（学務部教務課大学院支援係）

E-mail（学生募集専用）：fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp

【新潟大学の博士支援関連サイト】

PhDリクルート室：https://www.phd.niigata-u.ac.jp

博士ポータル：https://portal.phd.niigata-u.ac.jp

次世代プロジェクト：https://www.phd.niigata-u.ac.jp/next-generation-project/

募集要項

令和8年度補充採用
令和9年度採用（令和8年度秋期採用を含む）
グローバル社会を牽引する総合知と実践知を備えた博士イノベーター育成プロジェクト
（次世代プロジェクト）支援対象者募集要項

新潟大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が公募した「令和9年度次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)～博士後期課程学生の挑戦を支援する～」に採択され、本プロジェクト「グローバル社会を牽引する総合知と実践知を備えた博士イノベーター育成プロジェクト」を実施しています。

【趣旨】

新潟大学では、既存の枠組みにとらわれない挑戦的・融合的な研究に取り組むことができ、また多様な分野でイノベーションを創出できる次世代の博士人材を育成するべく、グローバル社会を牽引する総合知と実践知を備えた博士イノベーター（※１）育成プロジェクト（以下、次世代プロジェクト）を設け、優秀な博士課程学生の処遇向上とキャリアパスの支援に取り組みます。次世代プロジェクトに採用された学生には研究費及び研究奨励費として生活費相当額（※２）が支給されるだけでなく、学内のキャリアパス支援プログラムに参加すること、学内短期留学制度による挑戦的・融合的な研究に取り組むこと等が求められ（※３）、学位取得後には期間中に培った能力を生かして産業界を中心とする社会の様々な場で活躍することが期待されます。本学の次世代プロジェクト制度の趣旨をよく理解し、将来の我が国の科学技術・イノベーションを担う意欲に溢れる博士課程学生が数多く申請することを希望します。

※１　新潟大学は、文部科学省「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業（FLAGs）」に採択されました。
国際化と産学連携教育を柱に、文理融合・学際的環境のもとで「総合知」を創出し、複合的な社会課題を解決できる「博士イノベーター」を養成する大学院教育拠点の形成を目指します。
詳細は、https://www.niigata-u.ac.jp/flags-jp参照。

※２　SPRING事業の見直しに伴い、令和９年度から支援内容が一部変更となっています。

※３　JST SPRING事業では、年度毎に報告書等の提出が求められており、JSTによる中間評価も予定されています。それら評価の結果、経費の減額や中止の措置もあり得ることが明記されています。JST SPRINGの公募要領及びQ＆Aは以下URLを参照。
https://www.jst.go.jp/jisedai/spring/dl/fy2027/application-guideline-2027SPRING.pdf
https://www.jst.go.jp/jisedai/spring/dl/fy2027/faq-2027SPRING.xlsx

【申請要件】

採用区分	分類	申請要件（課程・年次等）
令和９年度採用（令和８年度秋期採用を含む）	Ⅰ	2027（令和9）年4月（または2026（令和8）年10月）に、下記の本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の者 ・現代社会文化研究科・自然科学研究科・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第１年次
令和８年度補充採用	Ⅱ	2026（令和8）年10月に、下記の本学大学院博士課程・年次に在学する者 ・現代社会文化研究科・自然科学研究科・医歯保健学研究科の博士課程・第１年次 （2026（令和8）年10月入学者を除く） ・医歯学系の４年制の博士課程・第２年次
	Ⅲ	2026（令和8）年10月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者 ・現代社会文化研究科・自然科学研究科・医歯保健学研究科の博士課程・第２年次 ・医歯学系の４年制の博士課程・第３年次
	Ⅳ	2026（令和8）年10月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者 ・医歯学系の４年制の博士課程・第４年次

※　令和10年度予約採用（令和9年度秋期予約採用を含む）は、実施しない。

【支援期間】

支援期間は、分類Ⅰにおいては、2027（令和9）年4月（または2026（令和8）年10月）から最大３年間（４年制の場合は４年間）とする。
補充採用の場合、2026（令和8）年10月から、分類Ⅱは最大２年６カ月間、分類Ⅲは最大２年間、分類Ⅳは最大１年間とする。いずれも、在学期間が３年間（４年制の場合は４年間）を越える場合、以降の期間は支援対象外とする。

ただし、分類Ⅰについて、各年度の支援人数の制約により、10月入学者においては、支援開始が入学翌年度の4月になる場合がある。その場合、支援期間は最大２年６カ月間（４年制の場合は３年６カ月間）となる。

出産・育児等のライフイベントを経た者については、個別の事情に応じ、支援期間の中断・延長等も可能とする。

採用予定者数

各区分の採用予定者数は以下のとおりです。

＜分類Ⅰ＞

区分１（日本人学生）	２２名程度
区分２（留学生）	２名程度
区分３（社会人学生）	１名程度

＜分類Ⅱ～Ⅳ＞

区分１～３	若干名

【申請条件】

１．申請者は、JST SPRING事業及び新潟大学次世代プロジェクトの趣旨を理解し、優れた研究能力あるいは資質・意欲を有し、自由かつ柔軟な発想による挑戦的・融合的な研究に専念することを希望し、かつ上記の申請要件及び下記の条件を満たす者とする。年齢制限、研究分野の指定は設けない。

　なお、JST SPRING事業の公募要領に基づき、留学生においては、修了後の日本への定着及び日本の国際競争力向上への貢献を視野に入れ、日本の科学技術・イノベーションに貢献するキャリアに進むことが求められる。また、多様な国・地域、特にASEAN諸国からの受入れを積極的に図ることがJSTの公募要領にて求められているため、選考に当たってその点を考慮する場合がある。

　ただし、次に揚げる者は除く。

（１）SPRINGと同趣旨の国費による研究費支援を受ける学生

・JST「次世代AI人材育成プログラム（博士後期課程学生）」の対象学生
・日本学術振興会（JSPS）の特別研究員
・国際協力機構（JICA）から支援を受けるJICA留学生
・JST「日　ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業(NEXUS)」の若手育成対象者

（２）本プロジェクトとの併給を認めない他の奨学金 を得ている学生

２．次に揚げる事項を全て遵守できる者とする。
（１）申請した研究計画を踏まえた研究活動に専念すること。
（２）キャリア開発・育成コンテンツ（※4）に参加すること。
（３）博士学生交流会（※5）に参加すること。
（４）年度始めに研究計画書、年度末に研究成果報告書を提出すること。
（５）メンターによる面談を定期的に受けること。
（６）researchmap に登録し、業績を更新すること、及び修了後10年以上にわたって実施する
　　キャリアについての追跡調査を始め、各種調査に協力すること。
（７）各種研究法令及び学内規程等を遵守し、研究インテグリティ（研究の健全性・公正性）
　　の自律的な確保ができること。

※４ 本学が実施する研究力向上等に関する支援やキャリアパス形成に関する授業等のキャリア開発・育成コンテンツには以下のもの等が含まれる。選択ユニット（後述）により必須となるキャリア開発・育成コンテンツは異なるため、募集説明会等で詳細を確認すること。

① 国際力の強化
　　国際学会発表、海外研修・留学、国際英文誌への積極的な投稿支援。留学生との交流イベント。

② 産学連携力の強化
　　キャリアマネジメントセミナー、実践参加型プログラムによる企業研究者との交流、企業とのマッチング。必要に応じて、「ジョブ型研究インターンシップ」等のインターンシップ。

③ トランスファラブルスキルの習得のための支援

ジェネリックスキルセミナー、知的財産教育、プレゼンテーション技法セミナー、アカデミックライティングセミナー、 院生会・附置センター各種イベント。

④ 若手向けキャリアパスの確保

PhD リクルートフォーラム、未来の博士ゼミ、１２大学合同の博士向け企業説明会（企業-学生のマッチングイベント）。

⑤ 在学中の起業・大学発ベンチャー輩出のための支援

アントレプレナーシップ教育。

⑥ データサイエンスに関する知見や技術の習得のための支援

各種スキルの習得セミナー・講習、若手データサイエンティストコロキウム（YDSC）。

⑦ 異分野融合研究の推進

学内短期留学制度（マルチラボシステム）、URA主催異分野融合イベント「U-goサロン」。

※5 JST等が主催する、博士学生が大学横断的に交流を行う交流会。宿泊を伴う可能性もある。

３．次世代プロジェクトでは、初年次（Ｄ１）は共通メニューにより、基礎的なアカデミックスキル、トランスファラブルスキル、情報・AIスキルを習得し、更にメンター面談を介して挑戦的・融合的研究をスタートする素地を育成する。２年次（Ｄ２）からは４つの人材育成ユニットに分かれ、各ユニットにより定められた必須の活動及び提供されるコンテンツの中から各自が選んだ活動に取り組む。取り組み状況の評価にあたってはポイント制を導入している。

（１）共通メニュー（採用初年度）

採択者ガイダンス、キャリアマネジメントセミナー（単位修得済みの者は除く）、メンター面談への参加、researchmap登録、ジョブ型研究インターンシップ専用システムへの登録を必須とする。

（２）人材育成ユニット（２年次（Ｄ２）から）

① 専門深化型ユニット（人数（目安）：各年次３人）

キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキル、アカデミックスキルを習得し、自身の専門研究力のさらなる深化を図る博士人材を育成する。 支援期間終了までに博士（後期）課程修了規定以上の数の論文を投稿すること、独立行政法人日本学術振興会の特別研究員制度への申請（毎年）、アカデミックライティングセミナーへの参加（年１コース以上）を必須とする。

② キャリア型ユニット（人数（目安）：各年次5人）

キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキル、ジェネリックスキルを習得し、産学官の広い分野において科学技術・イノベーション創出を担う博士人材を育成する。 PhD リクルートフォーラムへの参加（支援期間中１回以上）、ジェネリックスキルセミナー（全３回）への参加（支援期間中１回以上）を必須とする。

③ 創生型（クロスAI）ユニット（人数（目安）：各年次5人）

キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキル、加速化・多様化するデータサイエンスに関する知見や技術を習得し、クロスAI分野でイノベーションを創出できる博士人材を育成する。 YDSC の企画・運営（支援期間中１回以上）、 ビックデータアクティベーション研究センターのセミナー・講習への参加（支援期間中１回以上）を必須とする。

④ 学際研究型ユニット（人数（目安）：各年次13人）

異分野融合研究を通じて習得した知識・知見を活用して、多様な分野でイノベーションを創出できる博士人材を育成する。 学内短期留学制度（マルチラボシステム）を必須（支援最終年度は推奨）とする。学内の他研究室における一定期間（２年次以降の各年次で概ね３か月を目安とする）の研究従事を通じて学生が実施する研究の融合性・学際性を高め、挑戦的・融合的研究展開力の涵養を図ることを目的とするため、人文社会科学系、自然科学系、医歯学系を越える異分野研究交流を積極的に推奨する。また、年度末シンポジウムまたは学内研究交流会等（U-goサロン等）でのマルチラボに関する成果発表（支援期間中１回以上）を必須とする。

上記の他、支援期間中の毎年度、年度末シンポジウムへの参加を必須とする。

支援期間が２年以内の補充採用者（今回募集するうち、分類Ⅲ・Ⅳが該当）が取り組む必須の活動等については、別に定める。
（https://portal.phd.niigata-u.ac.jp/category/fellowship_next_gen/common 参照）

各ユニットへの振り分けについては、申請時のアンケートや採用後のメンター面談等において希望を調査の上、初年次の活動実績等を踏まえて決定する。各ユニットには支援人数（目安）が定められているため、希望のユニットへ進めない場合もある。各ユニットは現時点の予定であり、事業の進捗状況や運営予算の変動により、ユニットの枠組みや支援人数を変更する場合がある。 また、本プロジェクトでは、起業及び大学発ベンチャーを創出する博士人材育成の取り組みを新たに開始する予定である。

なお、希望により、初年次から、各ユニットにより定められた活動に取り組むことは可能であるが、取り組んだことのみをもって、ユニット振り分けの際、必ずしも有利に働くものではない。

新潟大学 グローバル社会を牽引する総合知と実践知を備えた博士イノベーター育成プロジェクト

「知のプロフェッショナル」として「知の総和」の向上に貢献　　持続可能な未来社会を構築

多様な分野で革新を起こす **博士イノベーター**　　白背景：推奨または必須

博士号取得
（D4）
D3
キャリア決定
キャリア・研究の深化と発展
D2
各分野へ
キャリアの学び
D1

専門深化型
日本の科学技術・イノベーションに貢献する研究人材の育成(UA・URAを含む)

創生型（クロスAI）
クロスAI分野でイノベーションを創出できる博士人材の育成

4つの人材育成ユニット

キャリア型
環境変化にしなやかに対応できるイノベーションリーダーの育成

学際研究型
異分野融合で自由な発想と創造ができる若手人材の育成

ユニット選択 面談・審査

キャリア開発育成コンテンツ

- ジェネリックスキルセミナー
- 企業連携イベント
- インターンシップの実践 JOB型を含む
- アカデミックライティング講座
- 博士ベンチャー支援ラボ
- アントレプレナーシップ
- 博士ベンチャー支援ラボ
- 日本語・日本文化教育　等

- 採択者ガイダンス
  制度理念浸透
  支援概要・スケジュール共有
  博士ネットワーク創出

- 研究計画書提出
- 博士のためのキャリアマネジメントセミナー キャリアの選択肢拡大
- メンター/キャリア面談 学生自身のキャリア観アウトプット
- 年度末シンポジウム参加 研究・キャリア形成への示唆の獲得

SPRING：本学博士後期課程学生を支援

新設 **大学院教育支援機構・博士イノベーター育成部門** 2026年4月新設

国際 PhDリクルート室
PhD リクルート室（強化）
PhDリサーチ・イノベーションサポート室
メンター教員

BDA 研究センター
UA室
学務部教務課 大学院支援係

FLAGs：大学院教育拠点
博士大幅増
国際＆地域研究
J-PEAKS：研究基盤

【支援内容】

１．研究奨励費（生活費相当額）の支給及び研究費の支給

（１）研究奨励費（生活費相当額）

区分１　の申請条件を満たす日本人学生には、生活費相当額　月17.5 万円を２ヶ月毎に支給する。

（２）研究費 次のとおり支給する。

初年次（共通メニュー時）		：年額20万円
２年次以降	専門深化型ユニット	：年額20万円
	キャリア型ユニット	：年額20万円
	創生型ユニット	：年額30万円
	学際研究型ユニット	：年額40万円

取り組み内容によって研究費を増額することがある。

また、当該年度の支援期間が半年以下の場合は原則として年額の１／２の額とする。

２．メンターによる研究環境支援及びアカデミアまたは産業界へのキャリア形成に関する助言や提言

３．PhDリクルート室によるジェネリックスキル獲得のためのセミナー等、キャリア開発・育成コンテンツの提供 （区分３　社会人学生を除く）

【申請書類】

１．申請書類は以下①～③である。

① 新潟大学次世代プロジェクト支援申請書
（1_drshien shinseisho_jp_2027）

② 新潟大学次世代プロジェクト支援申請者に関する推薦書
（2_drshien suisensho_jp_2027）

③ 新潟大学次世代プロジェクト支援申請者に関する同意書
（3_drshien douisho_jp_2027）

２．申請者は、申請書類①を提出すること。

３．申請者は、申請者をよく知る者（可能な限り、申請者の博士（後期）課程における受入教員（指導教員）とすること）を推薦者に立て、推薦者に申請書類②の提出を依頼すること。
なお、申請者が推薦書に記載された内容を確認することは禁ずる。
また、申請者は、申請者の博士（後期）課程における受入教員（指導教員）に申請書類③の提出を依頼すること。
（申請書類②・③は、同一教員が作成し提出することも可）

４．申請書類①～③は所定の様式を次のURLからダウンロードして作成すること。
https://www.phd.niigata-u.ac.jp/next-generation-project/application-details/

申請書は、日本語または英語のいずれかの、自身が理解できる言語で作成すること。
第二次審査（オンライン面接：Zoom）では、申請書で記載された言語でのプレゼンテーション（３分）及び質疑応答（５分）を予定している。

申請書類に捏造・改ざん・盗用等の不正行為が認められた場合は厳正に対処する。

【申請方法】

1．申請者は以下の手順により申請すること。

（1）申請者情報の登録

申請登録フォーム（https://forms.cloud.microsoft/r/M2z608tkL2）に必要情報を登録すること。

（2）申請書類の提出

申請書類①を**fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp** へ提出すること。申請書類は**PDFファイル**に変換し（必要に応じて自署後にスキャナで取り込むこと）、パスワード「**drshien_2027rec**」をつけて提出すること。なお、電子メールの件名を「**次世代プロジェクト支援申請（〇〇〇〇（申請者氏名））**」とし、メール本文に「**氏名・本学博士（後期）課程における所属研究科・申請登録フォームに入力した、現在～在学中～修了後も使用できるメールアドレス**」を記載すること。申請後にやむを得ずメールアドレスを変更する場合は、必ず新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局へメールアドレスの変更連絡を行うこと。

2．推薦者は申請書類②を**fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp**へ提出すること。申請書類は**PDFファイル**に変換し（必要に応じて自署後にスキャナで取り込むこと）、パスワード「**drshien_2027rec**」をつけて提出すること。なお、電子メールの件名を「**次世代プロジェクト支援推薦書（〇〇〇〇（申請者（被推薦学生）氏名））**」とすること。

また、申請者の博士（後期）課程における受入教員（指導教員）は、申請書類③を **fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp** へ提出すること。申請書類は**PDFファイル**に変換し（必要に応じて自署後にスキャナで取り込むこと）、パスワード**「drshien_2027rec」**をつけて提出すること。なお、電子メールの件名を「**次世代プロジェクト支援同意書（〇〇〇〇（申請者（学生）氏名））**」とすること。

【申請期間】

2026年 11月 13日（金）～2026年 11月16日（月）必着

申請書類提出後３日以内（土日祝日は除く）に受付完了メールが届かない場合は、下記問い合わせ先に電話で連絡すること。

また、いかなる理由であっても、提出期限後の申請は不可とする。

【選考方針】

審査に当たっては、将来性、発展性が期待され、分野や活動領域に捉われない自由で柔軟な発想と能力もった優秀な学生を採用すべく、以下の点を重視する。

（１）JST SPRING事業及び新潟大学次世代プロジェクトの趣旨を理解し、【申請条件】（本募集要項の3～５ページ）を全て遵守できること。

（２）研究に専念する意志があること。

（３）研究遂行能力が優れていること。

（４）我が国の科学技術・イノベーションへの貢献が期待できる研究内容を含んでおり、発展が期待できること。

（５）未来社会を牽引する優れた将来性があり、多様なキャリアパスを視野に入れていること。

（６）既存の枠組みにとらわれない挑戦的・融合的研究や新たな研究領域の創出に意欲があること。

（７）総合知を修得し、将来顕在化する社会課題解決に意欲があること。

（８）産業界との連携研究や地域再生・活性化に資する研究に意欲があること。

（９）各種研究法令及び学内規程等を遵守し、研究インテグリティ（研究の健全性・公平性）の自律的な確保ができること。

【選考及び結果通知】

選考は、審査委員会において、第一次審査（書面審査）及び第二次審査（面接）により行い、第二次審査の合格者を支援対象学生とする第一次審査の結果は12月3日（木）までに本人へ通知する。第二次審査は　12月10日（木）、12月11日（金）のうちいずれかに実施予定である。第二次審査は、オンライン（Zoom）で、プレゼンテーション（３分）及び質疑応答（５分）を予定している。本プロジェクトの趣旨を踏まえ、「本プロジェクトを志望する動機、目指す研究者像」について、スライド１～２枚を用いて説明してもらう予定である。第二次審査の結果は、12月25日（金）までに本人へ通知する。最終選考段階で合格者が定員に満たなかった場合、あるいは、合格者の中から辞退者が出た場合等に関しては、追加合格を出すか、または追って再募集することがある。

審査の結果通知は、申請登録フォームに入力されたメールアドレス（現在～在学中～修了後も使用できるメールアドレス）に送付する。

個々の選考の内容等については、一切回答はしないので、留意すること。

【その他】

・国における予算措置・支援制度の見直しの状況等により採用予定者数・支援内容等が変更になる場合がある。

採択された者について、大学ホームページ等により所属研究科、氏名、研究課題名等を公表する。

個人情報については「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に管理する。

・研究奨励費は雑所得として課税対象となるため、学生自身が確定申告を行い、「所得税」を納付する義務がある。

【問い合わせ先】

新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局　（学務部教務課大学院支援係）
TEL: 025-262-6110 FAX：025-262-6991 E-mail:fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp

【新潟大学の博士支援関連サイト】

PhDリクルート室　https://www.phd.niigata-u.ac.jp

博士ポータル　https://portal.phd.niigata-u.ac.jp

次世代プロジェクト　https://www.phd.niigata-u.ac.jp/next-generation-project/

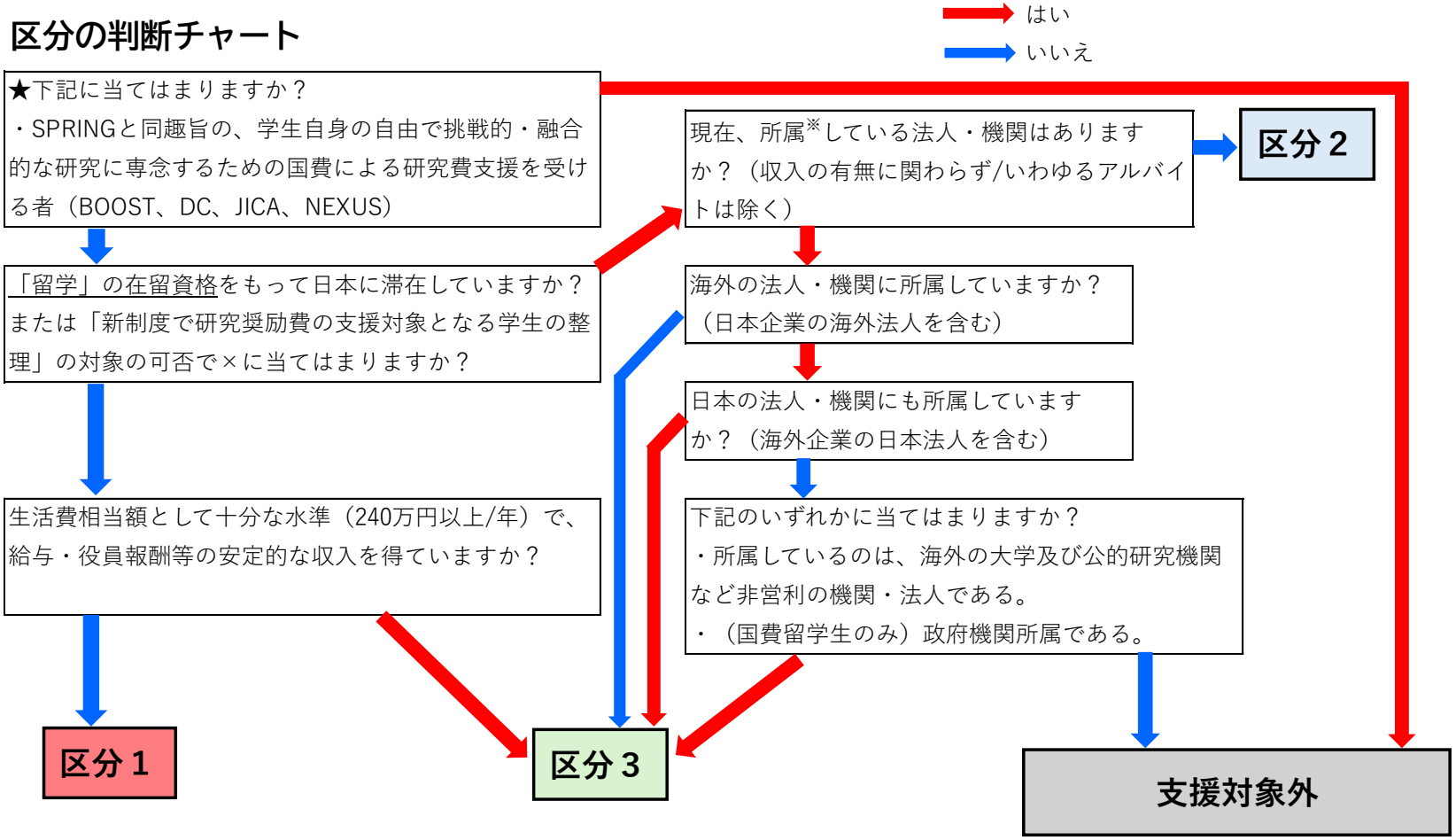
【新制度で研究奨励費の支援対象となる学生の整理】「JST令和9年度次世代研究者挑戦的研究プログラム公募要領」より

別紙１

区分	該当例		在籍期間	対象の可否
①日本国籍を有する者	日本人、日本に帰化した外国人		―	○
②特別永住者 （日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法第３条）	入管特例法第３条の規定による法定特別永住者として本邦に在留する者		無期限	○
③永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等 （出入国管理及び難民認定法別表第2）	永住者	法務大臣から永住の許可を得た者	無期限	○
	日本人の配偶者等	日本人の配偶者、子、特別養子	5年,3年 1年又は 6月	○
	永住者の配偶者等	永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子	5年,3年 1年又は 6月	○
④定住者 （出入国管理及び難民認定法別表第2）	一定範囲のインドシナ難民、一定範囲のﾌﾞｪﾄﾅﾑ難民、日系3世、定住者の配偶者、帰化した日本人・永住者・特別永住者・定住者の実子、中国残留邦人及びその子、日本人の実子を扶養する外国人親など		5年,3年 1年又は 6月又は 法務大臣が個々に指定する期間 (5年以内)	×
	上記のうち将来永住する意思があると認められた者			○
⑤家族滞在 （出入国管理及び難民認定法別表第1）	教授、芸術、宗教、報道、高度専門職、経営・管理、法律、会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、企業内転勤、介護、興行、技能、特定技能2号、文化活動又は留学の在留資格をもって在留する者の扶養を受ける子など		法務大臣が個々に指定する期間 (5年以内)	×
	①上記のうち、下記のいずれにも該当する者 ・国内で出生又は12歳に達した日の属する学年の末日までに初めて入国した者 ・日本の小学校等から高校等までを卒業・修了した者 ・大学等の卒業・修了後も日本で就労して定着する意思があると認められた者			○
	②本邦における在留期間とその他の事情を総合的に勘案して①に掲げる者に準ずると認められた者			
⑥右記の在留資格により在留する者 （出入国管理及び難民認定法別表第一の一から五）	(1)外交、公用、教授、芸術、宗教、報道 (2)高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、介護、企業内転職、興行、技能、技能実習 (3)文化活動 (4)留学、研修 (5)特定活動		区分の内容に応じて 15日から5年の期間(高度専門職の一部は無制限)	×

別紙２

区分の判断チャート



※　所属とは、博士後期課程学生として在籍する大学以外に役員・職員等として所属している状態を指します。

本チャートは、令和９年度次世代研究者挑戦的研究プログラム公募要領に掲載のチャートを基に本学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局が作成したものです。

（6）

質疑応答